



令和8年2月2日

川口市保健所

麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起

他県に届出があった麻しん患者について、管轄の保健所が行動調査を実施した結果、以下の施設を利用していることが判明しました。

感染の可能性がある時間帯に当該施設を利用された方で、麻しんを疑う症状（高熱・発疹・咳・鼻水・目の充血等）が現れた場合は、事前に居住地を所管する保健所に電話連絡の上、指示に従い医療機関を受診してください（特にワクチン未接種の方についてはご注意ください）。

また、受診の際は、感染拡大防止の観点から、公共交通機関の利用は避けてください。

1 麻しん患者が利用した施設

感染の可能性がある時間帯	施設名	所在地
令和8年1月22日（木） 12：00（正午）～14：00	株式会社セブン・イレブン・ジャパン 峯店	川口市峯544-1
令和8年1月27日（火） 5：40～7：40	株式会社セブン・イレブン・ジャパン 榛松店	川口市榛松2-30
令和8年1月28日（水） 5：40～7：40		

※ 施設への問い合わせは、ご遠慮くださいますようお願いいたします。

※ 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設を利用されても心配はありません。

2 麻しんの症状等

- 麻しんの潜伏期間は、通常10～12日間（最短5日間～最大21日間）
- 麻しん患者と接触した場合には、接触後21日間、1月28日（水）の場合は2月18日（水）まで注意が必要です。
- 麻しんに感染すると、約10日後に38℃程度の発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。

【注意喚起】

- ・ 現在、麻しんは海外で流行しており、帰国後に麻しんと診断された報告例も増えています。流行地へ渡航を計画している方は、渡航先でどのような感染症が流行しているか確認するとともに、自身のり患歴や予防接種歴を確認し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- ・ 旅行地域から帰国後、体調不良がある場合には速やかに医療機関を受診し、「いつ、どこへ渡航し、どのような症状が出ているか」を伝え、医師の指示に従ってください。
- ・ 麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）の定期接種（１歳と小学校入学前）がお済でない方は、接種をご検討ください。

【参考】

麻しん(はしか)について

1 症状

- ・ 感染すると通常10日から12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血など風邪のような症状が約2日から4日間続き、解熱後、再び39℃以上の高熱と発しん（耳の後ろや首あたりから、身体、手足へと広がる）が出現します。
- ・ 肺炎、中耳炎や脳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

2 感染経路

- ・ 麻しんは「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症（急性熱性発疹性疾患）です。
- ・ 麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。
- ・ 発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間まで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発しん出現後5日間まで）と言われています。

3 潜伏期間

約10日～12日間（最長21日間程度になる場合もあります。）

4 治療

特異的な根治療法はなく、症状を和らげる治療（対症療法）を行う。

5 予防

- ・ 麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみでは十分に予防できません。
- ・ 麻しんの予防には予防接種が最も有効です。2回の定期接種を必ず受けましょう。
- ・ 麻しんを発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させる恐れがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討しましょう。

6 市内の発生状況(麻しん届出数)

年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
川口市	0	8	0	0	0	0	0	2	0
埼玉県	16	35	0	1	0	0	8	13	0
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	4

※ 川口市の2018年は4月1日～12月31日、2026年は1月1日～1月31日の届出数

※ 埼玉県及び全国の2026年は、国の感染症発生動向調査第3週（1月12～1月18日）までの速報値